

E022 源氏山の石切り場跡（静岡県GEO DATA(16) : 地学散歩(95)）

著者	増島 淳
雑誌名	静岡地学
巻	115
ページ	iii-iii
発行年	2017-06-09
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00026038

E022 源氏山の石切り場跡



国土地理院 1 : 25,000 葦山

伊豆の国市の伊豆長岡温泉は、温泉場の中心にある「源氏山」（標高約 80m）を挟み東側には鎌倉時代以前からの古奈温泉が、西側には明治時代末に開発された長岡温泉が、それぞれ山際にへばりつくように位置し、温泉熱源の一つが源氏山の地下にあるとされている。源氏山は新生代第三紀鮮新世に活動した火山群が噴出した凝灰岩「江ノ浦凝灰岩層」からなる。本層は伊豆の国市から沼津市の海岸部に広く分布する白色の凝灰岩だが、熱水の影響を受け、緑色～褐色に変色している場合も多い。柔らかく加工しやすいため、江戸

時代後期から昭和 30 年代まで各所で採石されていた。源氏山も採石の対象とされ、多数の石切り場跡が残されているが、大部分は危険で近づきがたい。しかし、山の中腹にある本採石場跡は源氏山公園あやめ御前広場として整備されている。石切り場跡には「あやめ御前」（古奈出身、鶴、ぬえ退治で有名な源頼政の妻）の石像が彫られている。この部分は新鮮な凝灰岩が観察でき、浅海で堆積したと思われるラミナが見事である。 (増島 淳)